

2 学期 始業式

充実した
夏休みにする



想像する
ともに歩む

夏休み

印象に残った出来事

令和8年(2026年)熊本地震

発生：2026年7月28日(火)午後4時27分

- お亡くなりになった方 **38人**
- けがをされた方 **364人**
- 重症33人・中等症96人・軽症68人
程度を確認中167人
- 避難所で生活している方 **2,442人**
- 開設されている避難所 **61か所**

熊本では、わずか10年余りの間に、
震度7の大地震が再び発生しました。



令和8年8月千葉豪雨

発生：2026年8月13日(木)夕方から14日(金)明け方

- 8月13日午後7時30分、千葉市などに大雨特別警報
- 県内各地で線状降水帯が発生
- 24時間雨量は200ミリを超える地点が続出
- 千葉市では360ミリを超え、観測史上最大を記録
- 特別警報は、14日午前5時15分まで継続

被害状況(8月31日午後5時現在)

- お亡くなりになった方 **13人**
うち災害関連死 1人
- けがをされた方 **46人**
重傷2人・軽傷44人
- 住家被害 **約4,900棟**
- 避難指示等 すべて解除

わずか一晩の記録的な大雨により、
13人の尊い命が失われ、約4,900棟の住宅が被害を受けました。



相模原市 高校生死亡事件

2026年8月22日(土)



海で不明の中高生3人死亡

鹿児島県いちき串木野市
2026年8月28日(金)



ネパール・中国国境 大規模土石流 氷河と岩石の大崩落が引き金か

8月26日



福井県 記録的な大雨

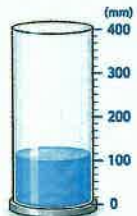
- 2026年8月29日(土)～30日(日)
- 福井市・勝山市・大野市
- レベル5 大雨特別警報
- 坂井市などで道路・住宅が冠水



- 繊維産業への影響
- 一部工場で浸水・雨漏り
- 多くの主要工場は操業を継続
- 機械への影響を確認中の工場も

千葉市 記録的な大雨

平年の8月 1か月分



3倍以上

今回 わずか24時間



千葉市では、わずか24時間で、
平年の8月1か月分の3倍以上の雨が降りました。

※千葉県全域ではなく、千葉市の観測値

「災害のフェーズ」が変わってきている。

過去に経験したことがない雨、
これまでの想定を超える災害が、各地で発生しています。
その背景の一つには地球温暖化があります。

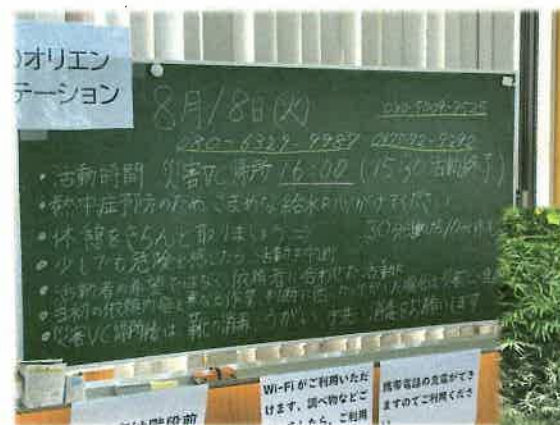
だからこそ、

『今まで大丈夫だったから、今回も大丈夫』
と考えてはいけません。

私たちの防災も、変化する災害に合わせて
アップデートしていく必要があります。



災害 ボランティア





「大網白里市で、被災されたご夫婦から聞いた言葉」

「家の中に水が
入ってきて、怖かった。」

「この先、
途方に暮れた。」

「でも、**命**が
あっただけよかった。」



“見る.. 現実
“立つ.. 現実
“ 違う ”

想像してみてください

被災地 未災地

「 3.11を学びに変える 」



佐藤 敏郎 さん

防災は

今日も元気な

“ ただいま ”

東日本大震災から15年

「 ゆずとつくる 未来へつなぐうた 」

震災伝承ソング「幾重」

佐藤 敏郎さん 「16歳の語り部」

(一部 抜粋)



↑案内役 佐藤敏郎

あの日のこと

2011年3月11日午後2時46分

私は、あの日、牡鹿半島にある女川第一中学校(現・女川中学校)にいた。
激震が走ったのは、翌日に控えた卒業式の準備をしていたときだった。
私たちのすぐ足元を、町が流れていった。

ゴーゴーという轟音、バキバキと倒れる建物、聞いたこともないような人びとの叫び声…… 圧倒的な自然の力を前に、為す術がなかったあの日、目の前で人が津波にのまれる様子を目にしてしまった人も多い。

避難先は寒い体育館。

大人たちでフロアに柔道用の畳を敷き詰めることになった。

特に指示をしたわけではなかったが、中学生たちが黙々と畳を運ぶのを手伝ってくれたことを覚えている。

1度目の夜が来た。

外に出てみると、夜空には一面の星。視線を下ろすと、町は不気味なほど真っ暗だった。

昼間に見た光景が現実だとしたら、町はどのようになってしまっているのだろう。

変わり果てた街の姿を想像し、朝が来るのが怖かった。

そのまま二晩を生徒たちと一緒に過ごした。

13日の午後、女川町から車で40分ほどの石巻市福地地区にある自宅から、妻と長男が私を訪ねてきた。

道路は、あちこちで通れなくなっていて、途中からがれきの中を歩いてきたという。

「何も歩いてこなくてよかったのに」

そのときの私は、佐藤家で一番つらく苦しい思いをしたのは自分とばかり思っていた。

だからこそ、笑顔で職員玄関まで向かった。でも、妻の口から出たのは、全く思いがけない言葉だった。

疑いもしなかった明日

3月11日の朝、次女のみずほは「いってきます」と言い、ランドセルを背負い、いつも通り学校に向かった。いつもと変わらぬ朝だった。

1週間後に行われるはずだった卒業式で、みずほはピアノの伴奏者に選ばれていた。毎日、一生懸命に練習していたのをよく覚えている。

「中学校に入ったら英語の授業が楽しみだな」
「部活動はバレーボール部に入るんだ」

あと少しで訪れたであろう未来をみずほは疑いもしなかった。
もちろん私だって疑いもしなかった。

娘の遺体が上がったというのだ。

妻は私にそう告げると、堰を切ったように、その場に泣き崩れた。

私は一瞬何を言われたのか。理解できなかった。

その後、妻と一緒に娘の通っていた大川小学校(石巻市)に向かった。

大川小の児童たちの遺体は学校近くの土手に並べられていた。

娘もそこに横たわっていた。

地獄のような光景を前に言葉が出なかった。

何でこんなことになってしまったのだろう。

もっと話をしたかった。

もっと声を聞きたかった。

それだけだった。

「覚えていてほしい」と「そっとしてほしい」

「娘さんの話をして、つらくないですか」とよくメディアの方から聞かれる。

もちろん今だってつらいし、悲しい。

でも、話さないからといって、悲しみは消えるものではない。

それに、この悲しみは心の中に娘がいる証拠でもある。

大切な人を失った悲しみを無理に乗り越える必要はない。

ただ、一緒に生きていけばいいのだ。

震災後、防災担当の教師として生徒たちによく話しできたことがある。

あの日を忘れないことが最大の備えです。

でも、忘れないことはつらいことだ。「あの日」という言葉を耳にただけで胸の中に、何とも言えないようなものが現れる。

震災後、特にNPOに入った2015年から県内外の学校や団体で、震災の話をする機会が増えた。

取材を受けることもある。

でも、話しながらいつも迷っている。

5年近く経った今でもずっと、だ。

「あの日起こったことを忘れないで欲しい」

たしかにそういう話をするのだが、その反面、私自身にもそっとしておいてほしいという気持ちがある。

被災したことはうれしいことでも、名誉なことでもない。

まして、家族が亡くなったことをわざわざ知らない人に話して、いったいどうなるんだと思うことがある。

でも、話すのだ。誰かが伝えなければ、やがてあの日のことは忘れ去られてしまうだろう。

話すことはつらいが、忘れられてしまうこともまた、つらい。

忘れてしまうことと、そっとしておくことは違うと思う。

ただ、ずっと思っていた。

3.11と向き合うときに、つらさや痛みだけでなく、ほんの少しでいいから、

そこに穏やかな気持ちや希望を加えられないだろうか。

あの悲しみを繰り返さないため、未来に何かが少しでもよくなるため、

私たちは生き延びた者として3.11にそんな意味を持たせたいのかも

しれない。

たくさんの「ただいま」

女川中生が詠んだ句にこんなものがある。

こんなことを繰り返していいはずがない。

そのために私達はあの日から

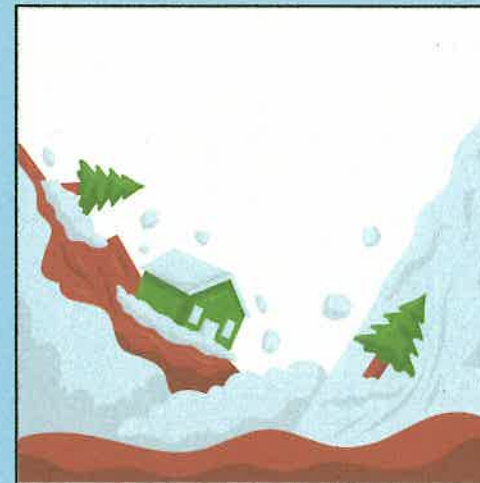
何かを学ばなければいけないのだ。

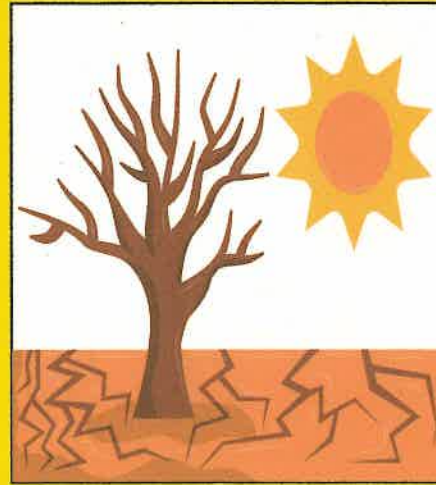
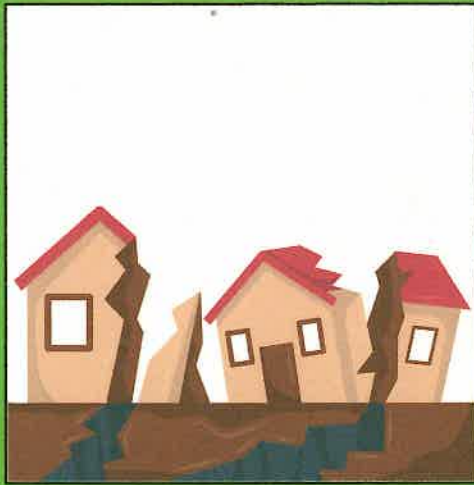
ただいまと 聞きたい声が 聞こえない

ただのつらかった過去にしてはいけない。

あの日を語ることは、未来を語ることなのだ。

みんなが活躍する時代





この他にも
様々な災害

自分、周りの人の
かけがえのない "命"

自分事？

私たちにできることは
なんだろうか？

想像する
ともに歩む

防災を考えることは
未来を創ること

2学期の「学習」

「行事」「体験活動」「部活動」

おわります。